

第33回 中小企業のキャッシュ・フロー改善。



Profile プロフィール

株式会社アカウンタックス 代表取締役社長

山口 真導

公認会計士・税理士。お客様に入り込んでの経理改善業務の経験から、机上の空論ではなく現実に即した財務改善のアドバイスを得意としている。

キャッシュ・フローのしくみ

売上は伸びているのに資金繰りが苦しい。納税時期に資金が不足する。こんなお悩みがある方は、キャッシュ・フロー、すなわち「自社のお金の流れ」に着目することをおすすめします。

まずは「営業キャッシュ・フロー」の把握から始めましょう。キャッシュ・フローは「1. 営業活動で得たお金」「2. 設備投資に関するお金」「3. 財務(借入金)に関するお金」の3つに区分されます。もっとも重要なのは「1. 営業活動で得たお金」です。全体のキャッシュ・フローから、2. と3. を差し引いた額が、1. の営業キャッシュ・フローです。

キャッシュ・フローをよくする「4つの原則」

キャッシュ・フローを改善する方法は、4つの原則に集約されます。

- (1) 入金の金額を大きくする
- (3) 出金の金額を減らす

- (2) 入金のタイミングを早くする
- (4) 出金のタイミングを遅くする

入金が遅い取引先への催促や、前払いの依頼など、入金を早める努力も必要です。支払いについては、支払日をなるべく先に設定すれば、そのぶん金利面でメリットが大きくなります。一つひとつの取引に対して、4原則に当てはめてできることを探してみましょう。「できない」「言いにくい」と思い込む、可能な範囲で交渉してみることが大事です。

キャッシュ・フローを基準にすることで生まれるメリット

「キャッシュ」は、企業経営において最も大切なものです。利益が好調でも、お金がなければ黒字倒産ということもあります。

資金繰りに問題のある会社では、お金に対する意識が希薄なケースが多く見られます。たとえば、売上の良い従業員に賞与を出しませんか。売上の数字は見込みですので、出金なら、入金されたお金に対する賞与とするなど、なにごともキャッシュを基準に考えれば、資金不足に悩まされることはなくなるはずです。資金繰りが良くなれば、自ずと決算書の数字は改善し、事業も安定するものです。まずは月々のキャッシュ・フローを把握することから始めてみてはいかがでしょうか。